



エコの島コンテスト 活動報告書

「宮古島の生き物たちから学ぶ ～親子で取り組むエコ活動～」

1. 動機

3年前から宮古青年の家主催の自然散策や野生生物の観察会に親子で参加してきた。とても楽しく学ぶことができ、子ども達が野生生物や自然環境に興味をもつようになった。そこで2017年4月からは観察会だけではなく、親子での自然散策もやってみることにした。そうすることで子ども達は自然を好きになり、大切にしたいと考えてエコ活動に取り組むようになるのでは？と考えた。

2. 目的

親子共に、生き物の生態や自然環境について興味関心を深める。そうして身近な生活環境について考え、エコ活動に取り組む。

3. 取り組んだこと

大野山林の散策と野性生物の観察、伊良部島でのサシバ観察、トゥリバーの砂浜での生き物さがし、ポイ捨てされたゴミの特長しらべ、自然に関する本の読み聞かせ、家族で身近な環境についての話し合い。

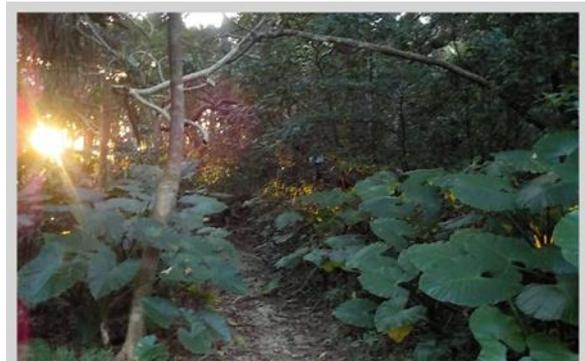
4. 結果と考察

【1】大野山林での活動

①宮古青年の家主催の自然観察会に参加（5月～8月に2回／月と夜間観察会1回）。



展望台から見下ろした大野山林



山林内の遊歩道

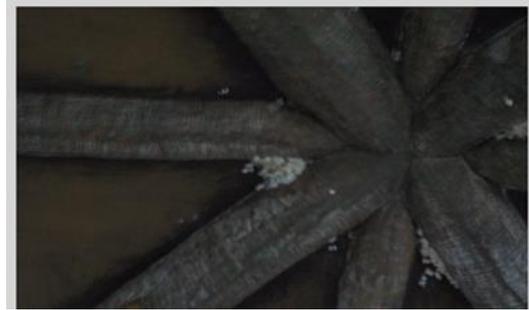
(発見したことや学んだこと)

- ・安全な散策の仕方と準備するもの
- ・大野山林一帯の地質と土地改良の経緯
- ・大野山林の原生林と植林地区（植林された木の種類）

- ・ 要注意すべきスズメバチの活動時期
- ・ マダラコオロギやアブラゼミのオス・メスの見分け方
- ・ ミヤコニイニイゼミなどセミの鳴き声のちがい
- ・ チョウチョとガのちがい
- ・ シロアゴガエルが木の上に産卵した卵の特長
- ・ クワガタの好きな木
- ・ 初めて見たクツワムシ・ナナフシ・メクラヘビ
- ・ 野鳥の鳴き声のちがい（サンコウチョウ・アカショウビン・インドクジャク・ヒヨドリ）
- ・ サンコウチョウとアカショウビンの巣作りのちがい
- ・ 毒があるミヤコヒキガエルを触ってみた
- ・ ガジュマルの気根が成長するとどうなるか
- ・ サキシマスオウの盤根が硬い
- ・ クワズイモの汁を触るとかゆくなる
- ・ ミヤコゼンマイやアダンの実を初めて食べた
- ・ 植物がよく育っている不思議なコンクリート屋根とその下にあるヤモリの卵発見



ヤモリの卵の付いた屋根



左写真屋根の下に付いたヤモリの卵

②親子で楽しむ 森林や近所での遊びと生き物探し（2～6回／月：1回1時間半程度）

- ・ ガジュマルの気根でブランコ遊び
- ・ サキシマスオウの盤根と一緒に開脚ストレッチ



- ・落ちている野鳥の羽あつめ
- ・アカショウビンの巣穴発見とアカショウビンの撮影成功
- ・インドクジャクの撮影成功と木の上にいる様子の観察
- ・ヤエヤマシガメを上手に捕まえる方法発見
- ・野鳥が水を飲む姿の観察
- ・夜の散策でホタル発見とミヤコヒキガエルの大合唱
- ・1年生の子どもが、カラスの巣を見つけて写真を撮った



公園で見つけたカラスの巣



巣の親カラス

③山林で見つけて飼育に挑戦した動物たち

ハラビロカマキリの卵・シロアゴガエルの卵・ヒラタクワガタ・タイワンオオカブト・ミヤマカミキリ・ジョロウグモ・サキシママダラ・ヤエヤマシガメ・セマルハコガメ

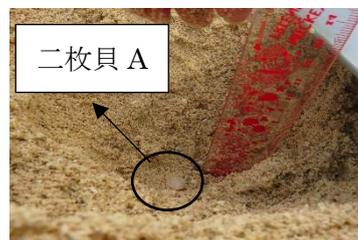
【2】トゥリバーの砂浜での散策

月に2回程度（週末の天気の良い日）の早朝（7時～8時）

①カニと貝さがし



カニA



二枚貝A



巻き貝A

- ・カニAは、トゥリバーの砂浜に朝早く行くと見つけられた。自分で掘った穴の中に隠れている。穴の大きさと体の大きさが比例している。
- ・二枚貝Aは、波打ち際の砂浜を掘ると見つけられた。小さいものがほとんどで、食べ

られる大きさのものは少なかった。巻き貝は、とても少なかった。

②砂浜のゴミ集めと分類

- ・プラスチックゴミがほとんどで、ガラスや金属は少ない。沖縄本島の海岸では、ガラスのゴミが多かった。
- ・プラスチックゴミが小さくなって、貝殻の破片と区別するのが難しかった。「パイナガマにもゴミがないか行ってみよう」「小さいゴミは、鳥も間違ってたべるかもね」など、子ども達はゴミを拾いながら考えていた。



貝がくっついた
発砲スチロールのゴミ

どんどん小さくな
っている発砲スチ
ロールのゴミが
落ちていた



【3】伊良部島でのサシバ観察

伊良部庁舎の屋上 10月13日～20日までの間に7回（16時30～18時30分）

①サシバの観察をとおして学んだこと

- ・サシバの群れの観察には、双眼鏡が必要であること、双眼鏡での観察の仕方、伊良部島に渡ってくる時間帯、群れが時計回りに円を描いて降りてくる様子、鳴き声、体の色が幼鳥と成鳥でちがうこと、夜は木の上で寝ること、食べ物、どこから渡ってきてどこの国に行くのか、何のために渡ってくるのか。

②観察後の変化

- ・親子共に、サシバの観察を経験した後から、日常の生活の中で空を見て、鳥が飛んでいるかどうかを意識するようになった。特に子どもは、宮古島に残っているサシバが飛んでいるのをよく見つける。その際に、幼鳥か成鳥かを識別しようとする。

【4】自然に関する本の読み聞かせ

自然に関する本を市の図書館や小学校の図書館から子どもが選んで借りて来た（週に4～5冊）。

- ・読んだ本の種類：カマキリとクワガタから始まって昆虫全般・アカショウビンやサシバから始まって宮古島の野鳥全般・カニから始まって海の生き物全般・カメやカエル、ヘビの飼育から始まって、は虫類全般・森の木の育ち方から始まって森に関する本

- ・散策を通して見た動植物に興味を持って直後に図書館へ行くようにした。生き物に関する子どもの興味はどんどん広がった。

〈好きな本ベスト5〉

「野鳥博士入門」「タカの渡り 観察ガイドブック」「虫の飼い方さがしかた」

「森はだれがつくったのだろう」「Tortoises&Turtles」

【5】家族で身近な環境についての話し合い

〈家族でテーマとなっている問題〉

- ・大野山林に捨てられた犬や猫、インドクジャクやイタチ、シロアゴガエルなどの外来種が、在来種に悪い影響を与えているのかどうか？
- ・海のゴミ問題、マイクロプラスチックは、生き物にどんな害がでてくるだろう？
どうしたら、とても小さなマイクロプラスチックが海から回収できるのかな？
- ・山林に道をつくると、動物が車にひかれてしまうから作らない方がよいのでは？
- ・大野山林周辺の農道に除草剤がまかれている。除草剤をまいた場所に子どもや生き物が近づいたら危険だな。
- ・大野山林の面白さをたくさんの人に知ってもらいたい。どうすればよいかな？



除草剤で枯れたと
思われる雑草



山林内の道路で
車にひかれて死んでいた
ヤエヤマイシガメ



大野山林内にたくさん
見られるカラス

6. まとめ

- ・宮古島の自然環境は、幼い子どもたちから大人まで気軽に散策や生き物の観察をするのにとても適していると実感した。
- ・自然散策をとおして、子ども達は生き物が好きになり、「森林や海を大切にしたい」と話すようになった。
- ・親は、忙しい中でも1時間半の時間を見つけて子ども達との散策を続けると、自然に癒やされて日頃のストレスを忘れることを体験した。そうすると面倒くさいと感じることが少なくなり、子ども達との観察が楽しくなった。
- ・4月から親子で、大野山林とトゥリバーの砂浜の散策、10月には伊良部島でのサシバ観察を行った。そこで野生動物について興味深くの観察し、サシバについては観察日

記を書くことができた。

- 野生の動物を飼育しようと試みることで、エサや飼育環境について学んだ。
- 散策している場所に落ちているゴミを見て、それを拾い分類してみると、生活に使ったと思われるゴミが多くて驚いた。ゴミのほとんどがプラスチック製であった。
- 大きいゴミだけではなく、貝殻の破片と区別がつかないくらい小さくなったプラスチックのゴミがあった。これを動物たちが口の中に入れてしまうことがあるかもしれないと考えた。これは、マイクロプラスチックといわれ、世界的に海洋汚染の問題になっていることがわかった。
- 絶滅危惧種のミヤコカナヘビを1回も見ることができなかつたのが、残念だった。
- 大野山林周辺でも、除草剤で枯れた草をよく見かけたことから、私達の飲み水の安全を守るために、大野山林の保全活動をする必要があると感じた。

7. 反省と今後の目標

- 今回の散策では、当初、観察記録をとらなかつたので詳しい報告書を作ることができなかつた。これからは、生き物の生態についての科学的な記録のとり方を学び、散策の記録をとってまとめる。
- 家族だけではなく、いろんな方と野生の生き物に必要な自然環境を保全する方法について考える。
- 身近な生活環境や地球環境について考え、楽しみながら行動する。



やっと見つけたアカショウビン

宮古にしかいないミヤコニイニイとミヤコヒキガエル



大野山林や海で

いっしょに遊びたいなあ

